

第4回大田区観光産業振興プラン検討委員会専門部会 議事録

日時	平成20年11月25日(火) 午後15:00~17:25
会場	大田区産業プラザ 第1・第2会議室
出席者	熱海委員、江本委員、栗原委員、高田委員、野口委員、福田委員(五十音順)

1. 開 会

部会長による開会の挨拶

2. 資料説明

・事務局より「大田区観光産業振興プラン検討委員会報告書原案」(参考資料1)について前回の検討委員会で提示したのから大幅な加筆・訂正があることから変更点を中心に説明し、本日の専門部会にて十分に検討していただき、12日の検討委員会に諮り、年内には区長に答申できるようにしたい旨を報告。

【主な変更点】

- タイトルの「生活観光文化都市」から「文化」をはずした。また、表紙の写真を変えて軽快な感じを出した。
- 『まえがき』として十代田委員長の文章を加える。
- 事業展開のイメージ図を入れて、空間イメージを把握しやすくする(現在のものは下絵)。
- 第1章=構成は変わっていないが、「商店街やものづくり産業の活性化、高齢者等の生きがい等への波及効果」、「まちづくりとの連動」を付加した。
- 第2章=計画目標、年次については区がつくる『観光振興プラン』の中でまとめる。
- 第3章=マーケット・ターゲットはマーケットの分類方法、各マーケットの特性を記述し、行動特性は例として挙げてある。第3章の(2)として、資源をテーマ別に編集した結果をまとめた。P18~26に基本調査で抽出した観光資源のテーマ別対応を掲載しているが、巻末に参考資料としてまとめたい。
- 第4章=基本戦略の考え方の説明だけでは判りにくいというご意見をいただいていたので、施策例と事例写真等を加えた。また、表現として「見せびらかす」にもご意見をいただいていたので、「他の人に知ってもらいたい、見てもらいたい魅力」にあらためた。
- 第5章=「先導的プロジェクト」としていたが、第4章とのつながりに配慮し、「大田区観光の推進戦略」として整理した。また、リーディングプロジェクトとして3つのプロジェクトを挙げていたが、「水と緑まち大田区を楽しむ仕掛けづくり」を加えて4プロジェクトとした。
- 参考資料=委員個人の意見について参考資料に添付する。

3. 審 議

(部会長)

- 前と比べて（イメージ）図や（具体的な）施策例が入って判りやすくなり、事例の写真が増えて楽しくなったように思う。細かいことだが、P34に「生活観光文化都市」という言葉が残っているので直していただきたい。

(委員)

- 施策例や事例が入り、以前よりイメージがわくようになった。西馬込の事例が出てこないことは気になるが、それとは別に3点について質問したい。
 - ①基本戦略6・7については、民間（NPO など）に任せる部分が多くなってよいのではないかと？観光協会が中心になりすぎているような気がする。
 - ②基本戦略とリーディングプロジェクト（以下、LP）が繋がっていないように感じるが？
 - ③基本戦略7でNPOを支援すると言っているが、LPには入っていない。具体的にどうなるのか？

(事務局)

- P63～64の表の中で、民間にもっと◎をつけても良いが、それを言うとなすべてのマスを埋めるような結果になってしまい、誰が中心として進めていくのかメリハリがつかなくなってしまう。観光協会が中心になることは確かで、観光協会に◎がついていないものは、案内板の整備や景観整備といったハード整備なので区が中心になるのではないかと。NPOなどは自ら展開していきたい施策に参加していけばよい。野口委員のNPOがこんな活動をしたいからこの施策に（◎を）つけたいという発想になってほしい。

(委員)

- 例えば、基本戦略6の一番目（交通拠点から回遊させる仕組みづくり）、二番目（まち巡りルートに対応した案内の充実）はNPOでもできる。道路空間を民間に開放して、スポンサーを集めるなどして民間が誘導板を立てられるようにしても良いのではないかと。

(事務局)

- すべてに◎をつけてしまえば意味がないので、少しは絞り込みたい。

(委員)

- NPOは載っていないでも勝手にやっているのだから、構わないのではないかと。

(事務局)

- 基本戦略とLPが繋がっていないとの指摘であるが、基本戦略から絞り込んだものをLPとして出している。

(委員)

- LPに載せないとやらないように見える。もっと多くの施策を（LP）に載せてもよいのではないかと？

(委員)

- LP は基本戦略の施策から絞り込んだものだから、これでよいのではないか。LP がないと基本戦略の施策の展開イメージがわからない。
- 例えば、基本戦略4（五感の移ろいを楽しむ仕掛けをつくる）は短期になっているのに LP に入っていない。大森、蒲田中心にと言っているのが勿体ない気がする。

（事務局）

- （LP と基本戦略の）どちらから入るのかの問題。
- 基本戦略の施策と LP が 1 対 1 でつながるものではなく、施策の複合的なものとしてより具体的に示したものが LP となる。蒲田と大森は性格が違うので、そこから進めていくことで他の地区のモデルとなる。LP は他の地区や事業のモデルになるもので、行政として施策を進めるためにより分りやすくしたものである。

（委員）

- それでも判りにくい。
- LP と基本戦略のつながりが分りづらいとは思わない。基本戦略と LP が合致していなくてはならないということはないし、LP の中に基本戦略が散りばめられていけばよいと思う。野口委員は文字から理解し、私は絵から理解するタイプだからかもしれないが。

（産業経済部長）

- 基本戦略に示されている施策を進めるために LP を出したもので、何か切り口を出して基本戦略の施策の具体化と進行管理をするものである。LP は重点施策として進めるものであって、LP に入っていないことはやらないということはない。

（委員）

- LP の実施主体は誰になるのか？

（事務局）

- LP の事業は複合事業で、大きな看板を掲げて基本戦略の内容が複数入るので、LP の実施主体は複合となる。

（産業経済部長）

- LP は（基本戦略に示された施策の）ベースを押し上げるものであり、基本戦略の事業を推進しやすくするものである、主体は基本戦略で明らかにされているので、それをベースに進める。

（委員）

- LP①～④でイメージがあると良いのではないか。報告書のイメージ図だと蒲田と多摩川だけしか見えないように見える。

（事務局）

- イメージ図には「LP を中心に」としてある。

- LP①～④は概念的に整理しながら、1枚の中にイメージを入れていく予定である。例えば LP②の「ものづくり」は鞆谷周辺だけでなく、他の地域も入ってくる。

(事務局)

- 先ほど事務局からの説明された(資源データの)巻末移行についてはどうか？

(各委員)

- 巻末資料ということで問題ないということで承認

(事務局)

- 資源で「のりすき」は「のりつけ」が正しい言い方である。

(委員)

- (P11について) 資源をA～Dに分類しているが、この分類は一般的な分類方法なのか。恣意的に分けているように見える。「多摩川アートライン」はなぜDなのか？

(事務局)

- 分類については基礎調査の時のアンケート結果から認知度と来訪度によって分類したものである。

(委員)

- 例えば、「アートライン」は(新規イベントのため)現実的に集客できておらず、他の資源についても分類された資源については、なぜその象限に位置されているのか説明できると思う。それぞれの資源の実態を見ても、Aが良くてDが良くないということはない。何でDにある資源なのかを考えるためのきっかけにするべきではないかと思う。
- “現状のアピール力”を“現状の認知度”に変えたらどうか。

(事務局)

- A～Dの説明文の表現には問題がある(アピール力・誘致力を認知度・再訪度といった表現に変更)と思うが、A→Dという順位ではなく、資源性の違いである。

(委員)

- テーマ2の下での2つの資源は現状のアピール力・誘致力が「※」となっているが「※」の意味は？

(事務局)

- 基礎調査のアンケートで聞いていない資源である。
- すべての(観光)資源をDからAに持っていくということではない。P3にも記載したとおり量の視点からはDのままでも良い資源もある。
- P3で言っている「量」だけを追及するものではないをもっと強調できないか。田園調布の人と話していたら「もっと(来訪客を)呼んでほしい」とは言うが、「どこまで増やしたらよいか？」と聞くと返事が出ない。ビクター産業であれ

ば量（を増やすこと）が問題であるが、区の産業や区民の生活を尊重しながら質を上げるという言い方をもっと強調できないかと思う。区民の誇りを考えると大切な部分になる。

(委員)

- 感動体験イベントカレンダーはよい施策だと思う。ネットでの公開だと高齢者などネットが使えない人もいると思うので、全区民に配布できないか？
- 情報さえ収集できれば作ることにはできるが、配布するという点だと金の問題がある。現在でも大田区の観光カレンダーは作っていて千円で売っている。
- 事業者に出してもらおうなど、(予算づくりの)方法はあるのではないか。区民の手が届くような値段であれば(例えば、100円とか200円とか)有料でも良い。

(事務局)

- 感動体験イベントカレンダーの例として言えば、JTBが全国を網羅したイベントカレンダーを作っている。感動体験イベントカレンダーづくりの仕組みができると、ネットでの投稿など他の施策にもつながるものだと思う。
- JTBのカレンダーは楽しいが、大田区(のイベント)だけで365日を埋めるのは厳しい。

(委員)

- P62の表の数字は(区民活動の)団体数だと思うが、観光協会として何ができるのかを常日頃考えている。このような団体のネットワークの中心として課題を解決していくのが、観光協会の役割なのではないかと思っている。このあたりをもう少し突っ込んで表現できないか。観光協会のサポーターのような組織もあるとよい。
- P59で触れている「文化の森運営協議会」と「大森コラボレーション」は、性格的には違うが、(ネットワーク化の)推進力になると思う。

(事務局)

- 観光協会はプロデューサー的な役割として他の団体とネットワークできるような仕組みづくりをしていくことだと思う。

(部会長)

- 観光協会に行政の息がかかっていないので難しいのでは？

(委員)

- 最近は支援をさせていただいている。

(事務局)

- 行政だと公平性がネックになる。また、行政は施策を実施したときに10割打者であることが求められるので、振りが小さくなる。民間であれば3割打者でも良いので思い切ったこともできる。

(委員)

- P58でも「観光協会の機能強化」で止まっている。

(事務局)

- 観光協会がどう考えるかによる。(行政から)押し付けることはできない。

(委員)

- 前回、「ワクワク感がない」と言ったが、まだ不足している。この報告書は誰が読むのか？

(事務局)

- この報告書はHPに載るだけで流通はしない(印刷物の配布はしない)。

(委員)

- 区民に読んでほしいのであれば、文章を簡単にして、読んだ人が見方になってくれるような書き方をする必要がある。区内の活動事例も入れられたら良い。先進事例として取り上げられることで、(そのグループの)やる気が出てくる。
- 例えば、水辺の活動をやっているグループがある。
- 大森夢フェアをやっている「大森夢会議」は大田・品川にまたがって活動している。

(事務局)

- ものづくりの写真がもっとあると良い。
- アートラインの写真は使っている。多摩川台公園の写真は人が入っていて使えなかった。

(委員)

- 多摩川台公園の写真はあると思う。表紙の多摩川の写真も暗いような気がする。

(部会長)

- 羽田が国際化した場合の運航予定を調べてみたら、昼はプサン、ソウル便がデイリー、夜間にはロンドンやパリ便がデイリー、その外にもマレーシア、シンガポールなど東南アジアへの運航が予定されている。早朝や深夜のアクセスと宿泊施設が重要になると思う。またパンフレット、DVD等についても多言語対応を進める必要がある。

(事務局)

- 多言語対応についてはハングル語、中国語(簡体語)、英語は考えている。蒲田周辺のホテルには既に海外からの来訪者も宿泊しており、総じて評価も高く、特に海外から直接予約されている人たちの8割から9割はホスピタリティが高いとの評価を得ていると聞いている。委員会でもご指摘があったが、ホテルに関する具体的な取り組みについては、事業者の問題となるので、深く突っ込んだ記述はできない。
- 約束の時間になったがお許しを得て、少し延長したい。

(委員)

- 5章の(2)②にLPの実施主体等について「明らかにする」という記述があ

るが、これはこの報告書で示すものなのか。

(事務局)

- この検討委員会で決めるのは無理かもしれない。区のプランでは必要だが、ここでは実施主体等については「明らかにすることが必要と考えております」程度の記述に変更した方がよいと思う。したがって、②の要件は、①の下に記載しておいた方がよいのではないかと思う。

(委員)

- キーワード、大田ブランドについては最後に議論をするという話が、これまでの専門部会であったがどうなるのか。

(部会長)

- 前に討議したが結論を得ていない。

(事務局)

- このような問題は議論をしていくにつれて言葉が拡散して、長い言葉になってしまう傾向がある。10年で達成できるかどうかは別としても大きく出してもよいのではないか。

(委員)

- 「世界に開かれた」という表現はオーバーなような感じがする。

(事務局)

- 確かにそうかもしれない。「世界につながる」あたりがよいかもしれない。
- 「区民参加」を表現する必要があるかもしれない。「自分たちがやる」という意識（を表現したい）。

(委員)

- 検討会でも熱海委員から「ハネチカ」という言葉が出たように、「羽田に近い」「親しい」という意味を込めて「近い」という言葉をキーワードにできないかと考えている。
- 「生活観光」の『生活』にルビを振って「イキイキ観光」と読ませるのはどうか。

<ほぼ全員が賛意>

「“世界とつながる生活観光都市”をめざして」

3. 閉 会